顕　彰　状

村上春樹氏は、1949年1月12日に京都府に生まれ、兵庫県西宮市・芦屋市で育った。1968年に早稲田大学第一文学部に入学。在学中にジャズ喫茶を開店し、卒業後も経営を続けていたが、『群像』に応募した「風の歌を聴け」で1979年に第22回群像新人文学賞を受賞し、小説家デビューを果たした。

その清新な文体でたちまち注目を集め、以降は現代日本文学を代表する作家として活躍し、1982年に『羊をめぐる冒険』で第4回野間文芸新人賞、1985年に『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』で第21回谷崎潤一郎賞を受賞。1987年に出版された『ノルウェイの森』（上・下）は、1000万部を超える大ベストセラーとなり、今なお部数を伸ばし続けている。1996年には『ねじまき鳥クロニクル』で第47回読売文学賞、2009年に『1Q84』で第63回毎日出版文化賞も受賞している。

氏の作品は、1980年代後半から本格的に翻訳され始め、現在では50以上の言語に翻訳されており、その普遍性が世界的にも高い評価を受けている。2005年に『海辺のカフカ』の英訳版*Kafka on the Shore*が『ニューヨーク・タイムズ』の"The Ten Best Books of 2005"に選ばれると、2006年にはフランツ・カフカ賞をアジア圏の作家として初めて受賞、同年に短編集*Blind Willow, Sleeping Woman*（めくらやなぎと眠る女）でフランク・オコナー国際短編賞を受賞したほか、エルサレム賞（2009年）、スペイン芸術文学勲章（2009年）、ヴェルト文学賞（2014年）、ハンス・クリスチャン・アンデルセン文学賞（2016年）、ラッテス・グリンツァーネ賞（2019年）など、世界の名立たる文学賞や勲章を次々と受賞してきた。日本文学の可能性を広げ、現代で国際的に最も評価されている日本人作家の一人であり、国内外において次世代の作家たちに大きな影響を与え続けている。

氏は、小説や随筆、紀行文に加え、翻訳も多数手がけている。スコット・フィッツジェラルド、レイモンド・カーヴァー、J・D・サリンジャー、レイモンド・チャンドラー、グレイス・ペイリーなど、アメリカの作家を中心にこれまで80冊以上を翻訳した。原文に内包される意味が伝わる翻訳によって、文化的背景の異なる日本の読者にもわかりやすい作品に仕上げ、広く紹介してきた。

氏は、文学における世界的な貢献に対して、各国の大学からの評価も高く、リエージュ大学（2007年）、プリンストン大学（2008年）、ハワイ大学（2012年）、タフツ大学（2014年）、イェール大学（2016年）から名誉博士号を授与されている。

本学においても、2007年に第１回早稲田大学坪内逍遙大賞が授与された。また、2019年6月に設立した早稲田大学国際文学館（村上春樹ライブラリー）には、氏から自筆の原稿、書籍、書評記事のスクラップやレコード等が段階的に寄託・寄贈される予定で、村上春樹文学を中心に、世界中の文学研究者や村上作品の愛好者が訪れる創造的な国際研究拠点として、学内外から大きな期待が寄せられている。

ここに早稲田大学は、村上春樹氏の顕著な功績をたたえ、早稲田大学芸術功労者として永くその栄誉を顕彰するものである。

２０２１年４月１日

早　稲　田　大　学